

▶ 高速IC30分カバー率

1. 鳥取県の現状

鳥取県内の高速道路は米子自動車道のみであり、県東部側には整備されていません。（鳥取市の最寄り的高速道路ICは、岡山県内の「津山IC」、兵庫県内の「佐用IC」）

そのため、鳥取県の高速IC30分カバー率は33%（平成15年度値）であり、十分とは言えない状況です。

特に県の中部及び東部地域は、カバー圏外の空白地帯になっています。



2. 昨年度の成果(達成度報告)

平成16年度は名和・淀江道路、東伯・中山道路、中国横断自動車道姫路鳥取線、駈馳山バイパスなどの事業について整備を推進しましたが、新規供用箇所がなかったため、高速IC30分カバー率の値は変わりませんでした。

各事業の進捗状況はP.42～43参照

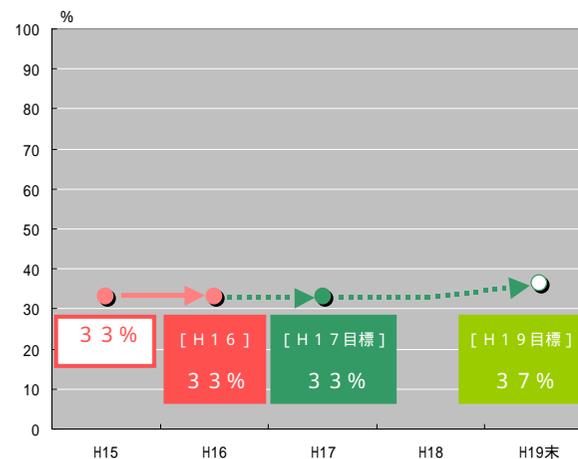
3. 本年度のとりくみ(業績計画)

平成17年度は、青谷・羽合道路アクセス部、生山道路の供用が予定されており、これらの整備により、高速道路ICまでアクセス時間が短縮されます。

「TOPICS 生山道路」P.8参照

本年度も高速IC30分カバー率の向上が期待できる事業箇所の早期供用を目指して整備を推進します。

高速IC30分カバー率の目標



平成17年度の供用予定箇所は高速ネットワークに接続しないため、高速IC30分カバー率の値は変わりません。

TOPICS ～ 江府三次道路 生山道路の開通～

・一般国道183号「生山道路」は、地域高規格道路「江府三次道路」の一部区間を形成し、日野町福長と日南町霞を結ぶ延長約4.1kmの自動車専用道路です。鳥取県西部地域における地域高規格道路としては初めて供用しました。



供用前の国道183号



7月26日開通!

生山道路の時間短縮効果



高速道路IC30分カバー率に変化はないですが、地域の皆様の暮らしは着実に便利になっています。



4. 平成19年度目標達成に向けた展望

高速IC30分カバー率の平成19年度目標値は37%であり、平成17年度から4%の増加を目指します。



整備事例

～ 名和・淀江道路～

・名和・淀江道路は、山陰の地方都市間の連携を強化するとともに、環日本海交流の基幹軸の一翼を担う道路であり、かつ国道9号の混雑緩和や災害時の緊急輸送路の代替路線などの機能が期待されています。

H16の事業内容 事業の進捗率

平成16年度は清原橋、江東川橋、荘田橋等の工事を促進 **66%**

H17の事業内容 事業の進捗目標

平成17年度は阿弥陀川橋、蛇の川橋等の工事を促進 **80%**

(工事の状況)

